



# NO. モユク・カムイ 119

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 January 2024

## ASAHIYAMAZON NEWS

### あさひやまどうぶつえんニュース

#### もくじ

ぼくは動物大使 その80  
流水とともに ゴマフアザラシ .....12

特集 動物のお引越し事情～動物たちの移動の裏側紹介～ .....34

飼育研究レポート .....5  
24年ぶりのヒグマの保護受け入れ

こども牧場からのお手紙～新しい仲間が増えました～...6

主なできごと・編集後記・飼育動物数 .....7



ゴマフアザラシ

*Phoca largha*

# ゴマフアザラシ

学名 *Phoca largha*  
 分類 食肉目アザラシ科  
 ゴマフアザラシ属

夏はベーリング海周辺、冬は越冬・出産・育児のためにオホーツク海を中心に流氷とともに南下してくる海棲哺乳類。体長はオスで170cm前後、体重は100~150kgメスはオスよりやや小さい。アザラシ18種の中では中型である。体のごま模様が名前の由来。食性は魚・イカ・タコなどを食べる。新生児は体長0.7m、体重10kgほどで白い毛におおわれている。生後2~3週間で白い毛は抜け、離乳となり親子関係は終わる。

日本の動物園・水族館では最も多く飼育されている種である。

## ゴマフアザラシの分布

オホーツク海から北海道近海、ベーリング海など



## 世界のアザラシ

アザラシは世界に18種います。大きさは体長1m、体重5~60kgほどのワモンアザラシからオスで体長5m、体重3tもあるミナミゾウアザラシと様々です。

ほとんどの種は魚が主食ですが、中にはペンギンを食べるアザラシもいます。ほとんどの種が体に何かしらの模様があります。北海道では18種中、ワモン・ゴマフ・ゼニガタ・クラカケ・アゴヒゲの5種類が見られます。

アザラシ18種等身大看板 (夏期のみ)



18種分布図 (館内EVホール)



### 後ろ足

ひれ状になった後ろ足。泳ぐときは左右に振って推進力をつける。



### 尾

短いけどある。



### 体

水の抵抗を少なくするためなめらかな流線型。

### 寿命

25~30才くらい。

### 毛

短い毛が後肢に向かって密に生えている。春先に毛換わりをするが、ごま模様は変わらない。

### 歩行

イモムシのように這って進む。後ろ足は使わない。歩くのは苦手。

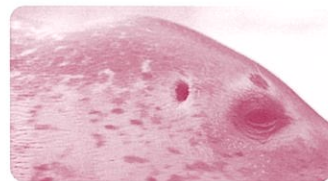
### おっぱい

乳頭は1対。乳脂肪分40%の特濃ミルク。

# ぽくは動物大使 その80 流氷とともに ゴマフアザラシ

### 耳

耳たぶはなく穴だけ。



### 閉



### 開



### 鼻

水中では水が入らないよう無意識に閉じる。息継ぎの時は力をいれて開く。

### ひげ

長くて固い。ひげの付け根で水の動きを感じ、暗い水中でも魚の動きがわかる。



### 前足

短い。がっしりした爪を氷にかませる。



## 旭山動物園・あざらし館の仲間たち

ぽちゃ丸 (メス) '11. 3. 26生  
 マイペースでおっとりした性格。おでこの白線が見分けるポイント。



ましろ (メス) '17. 4. 3生  
 小さい頃、体が白かったのでましろと命名。大人になったら黒くなった。



ラッキー (オス) '18. 3. 20生  
 昨年、稚内ノシャップ寒流水族館から来園。クリクリおめめのイケメンアザラシ。



麦 (メス) '21. 3. 27生  
 母はぽちゃ丸。好奇心旺盛でとても賢い。ただ今トレーニング練習中。



ゆき (メス) '23. 日にち不明  
 '23. 4. 29知床で保護された野生個体。海に帰せなくなり、6月に旭山で受け入れた。



### オオセグロカモメ

事故に遭って保護された。片方の翼を失いとぶことはできない。



### ミツユビカモメ

こちらは富良野で保護された。外デビューはまだしていない。タイムリングを見て今後展示予定。



## 似てるぞ! アザラシとアシカ・オットセイの4つの見分け方

### アザラシ

- 体に模様がある (ないのもいる)
- 耳たぶがない
- 這って歩く
- 後ろ足で水を掻く

### アシカ・オットセイ

- 模様はなく一色
- 耳たぶがある
- 四つ足で歩く
- 前足で水を掻く

## 野生のゴマフアザラシ

ゴマフアザラシに限っては、今すぐ絶滅してしまうことはなく、たくさんいます。かといって安心はしていません。大きな問題が二つあります。一つは「漁業被害」。魚を追い定置網に入ったアザラシは、魚を食い荒らしたり網を食い破ったり・・・その被害額は年間億単位といわれ漁師さんにとっては死活問題となっていて、今後どう折り合いをつけるかが課題です。もう一つは「海洋プラスチックゴミ問題」。これはアザラシに限らず、海の生き物たちが苦しんでいます。ひとりひとりが大きなことはできません。マイバッグやマイボトルを使うなど、できることから始める、大事なことはゴミを減らす、なくすこと。小さいことの積み重ねですが、そんな努力の結果で、また彼らが安全で安心して暮らせるきれいな海に戻せたら・・・汚したのは人間、戻せるのも人間です。

# 特集 動物のお引越し事情

## ～動物たちの移動の裏側紹介～

動物園では多くの動物たちが暮らしています。そして、その中で生まれる動物や死んでいく動物がいます。しかし、すべての動物が生まれ育った動物園で一生を終えるわけではなく、他の動物園へ移動したり、他の動物園からやってくることもあります。今回の特集では、今まであまり表にでることのなかった、動物の移動の裏側について紹介します。

### 1. 動物の移動が決まるまで

動物園には多くの動物舎に動物のお部屋(寝室)があります。中には複数で大きな部屋にいるペンギンもありますが、そのような動物も含めて飼育できる数には限りがあります。そのため、計画的に繁殖させることと、繁殖して子が育った時にもらい先を探すことが必要になります。逆に新しくペアをつくる場合には動物園から移動してくる必要があります。

以前はそれぞれの動物園同士で話し合っ動物を探し、決めていました。しかし、最近では主だった動物(ホッキョクグマやレッサーパンダなど)は日本動物園水族館協会が血統登録簿(人間の戸籍のようなもの)を作成し、動物ごとの種別計画管理者が動物移動のコーディネートをしています。各動物園は「トラの若いオスがほしい」などの希望を伝え、管理者は希望と全体のバランスを考えうえで計画を提案します。その提案に各動物園が合意して移動が決まるケースが増えています。



レッサーパンダのプーアル

2020年に来園し、2回の繁殖に貢献して2023年に円山動物園へ移動しました。

### 2. 動物の移動が決まってから

さて、動物が移動することが決まっても、まだ決めることがあります。動物というのは多くの動物園で、その動物園を運営している地方自治体や会社の財産になります。なので、簡単に他の動物園にあげたりすることはできません。そのため移動のための条件を決める必要があります。移動の条件とは、、、、

- 無償譲渡** 動物が多くて困っていたりと、出す側に事情がある場合は無償で移動することもある。
- 交換** 同じ動物や、価値が見合う動物で交換する。相手の希望もあるのであまり決まらない。
- ブリーディングローン** 動物の所有権はそのままに、貸し出すこと。かわりに移動先で子が生まれた場合、貸出元の動物園のものになることが多い。

※動物園間のやり取りの場合、お金を払って購入することはほとんどありません。

## 実際の動物移動(ホッキョクグマ「ゆめ」編)

ホッキョクグマの「ゆめ」は2021年12月10日に母親「ピリカ」が出産し、元気に生育しました。みなさんは旭山の「ゆめ」と認識していたと思いますが、「ピリカ」と父親の「ホクト」はともにブリーディングローンでやってきたホッキョクグマなので、最初から「ゆめ」は旭川市(旭山)所有にはならないと私たちは考えて飼育していました。もちろん、自分の所有にならないからと扱いが変わるわけではないですよ。

父親:ホクト  
姫路市所有



子:ゆめ  
メス



母親:ピリカ  
帯広市所有

この段階では両園関係者間での話なので、まだ公表はできないのです

#### その1 所有権の決定

生後1年たった2023年5月頃、姫路市と帯広市の担当者と相談を始めます。最終的に帯広市所有とすることになり、書類のやり取りスタート。7月頃に手続き終了しました。

#### その3 移動の手続

所有権のない旭山(旭川市)は書類のやりとりが特になく、神戸市と帯広市で条件を決定し契約が交わされます(ブリーディングローン)。

両市の契約が終わった段階で、移動の広報が、できるようになります

#### その2 移動先決定

夏頃、ホッキョクグマの種別計画管理者から神戸市王子動物園への移動が提案され、所有している帯広市も合意しました。

#### その4 移動の段取り

王子動物園と相談。例えば「輸送の檻は前日までに持ってきてほしい」「搬出時間は何時がいい」など、輸送業者の都合やルートなども考えて輸送日が決定します。

### いよいよ移動!(2023年12月1日)



ゆめに麻酔のための吹き矢を打ちます



眠ったゆめを輸送檻に入れます



檻をトラックに載せて神戸へ出発!

この後、ゆめを載せたトラックは付き添いの王子動物園の方と一緒に無事に2日後の12月3日、王子動物園に到着しました。



# 飼育研究レポート

## ～24年ぶりのヒグマの保護受け入れ～



今年の6月19日、砂川市で保護されたヒグマを受け入れることになりました。旭山動物園では、1999年に中頓別町で保護された「とんこ」以来、実に24年ぶりのヒグマの保護受け入れとなりました。

ここ数年、北海道をはじめ全国各地でクマの市街地への出没や人身被害などが多くなってきています。多くの場合、問題となったクマは「駆除」されるわけですが、今回はなぜ「駆除」ではなく「保護」となったのか？来園者の方にもよく聞かれます。クマのニュースのコメントなどを読んでいると「これだけ人間社会に被害があるならクマの駆除は仕方ない」というような肯定派、「そもそも人が彼らの生息地を奪っているのに駆除ではなく保護すべき」というような否定派が存在します。動物園は保護したから否定派なのか？というところではありません。

北海道ではヒグマが出没した際その有害性を判断する指針が示されています。人前に出てきたクマを何でもかんでも無差別に駆除しているというわけではないはずで、対象となる個体が「農作物に執着している」、「頻繁に人家の周辺に出没する」、「人を恐れず近づいてくる」、などの問題行動を確認し駆除の対象となるかどうかを判断します。

今回のケースに関しては、公園で頻繁に出没が確認されていましたが、親個体の存在が確認されず、日がたつにつれ衰弱していく様子が確認されていたため、他のキツネやタヌキなどの動物と同様に駆除ではなく保護されることとなりました。また、昨年えぞひぐま館が新しく建設されましたが、立派になった施設で1頭のみしか飼育していなかったため、使用していない寝室や展示スペースがあり収容能力に余裕があったことも要因となります。

これが親とともに人前に頻繁に出没を繰り返していた個体であれば今回のような対応にはならず親と一緒に駆除の対象となっていたと思います。

さて、小さなオリに入って運ばれてきた子グマはヒトに対して威嚇や抵抗をする元気すらないような状

態で、オリから出す際に捕まえたときには片手で軽々と持ち上げられるくらいの重さしかありませんでした。飼育する寝室では、常に隅の方で怯えている様子でしたが、幸いにも餌はすぐに食べてくれたので、まずはしっかりと食べさせて体力を回復させることを優先とし、その後飼育する自分たちヒトへの警戒を解いてもらえるよう飼育を進めていきました。



6月19日の「すなすけ」

徐々に施設にもヒトにも順調に慣れていき、最近では外の展示エリアへの馴致も始めました。体重もおそらく40kgを超えるくらいまで大きくなり、冬毛とも相まってまんまるな体型になり寒い季節に備えています。

保護された地名に由来し「すなすけ」という名前になった今回の子グマや24年前に保護された「とんこ」を通して、クマの生息する土地でどうしたら彼らと私たちが共生共存していくことができるのか、動物園としてできることを、動物園だからできることをこれからも考え実践していきたいと考えています。



今の「すなすけ」

(えぞひぐま館担当:大内章広)



# 子ども牧場からのお手紙

## ～新しい仲間が増えました～



子ども牧場ではペット・家畜種を飼育しており、繁殖も行っていますが、新しい血筋の動物たちを増やすために、新たに新規個体を外部から導入することにしました。

検討の結果、第1子ども牧場にはウサギが2頭、モルモットが2頭、第2子ども牧場にはヒツジが2頭、トリ舎にはニワトリが5羽(卵から孵りました)と、非常にたくさんの新しい仲間を迎え入れることができたので、新しく仲間入りした動物たちを一挙に紹介します。皆さんぜひ、子ども牧場まで会いに来てくださいね。

※ウサギとモルモットのオスは交代での展示またはふれあい参加となります。



愛称:リッカ(メス)  
2023年8月生まれ。  
警戒心が強くて、すばしっこい。

### 「ヒツジ」 (ジャコフ種と ロマノフ種の雑種)

11月7日来園 【吉田牧場から】

愛称:イツカ(メス)  
2023年2月生まれ。  
靴下のような足の模様が特徴。

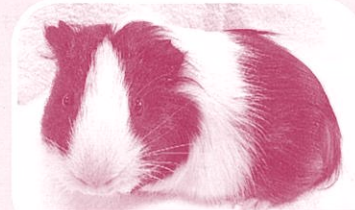


愛称:しゅん(オス)  
2023年生まれ。  
とてもおだやかで  
マイペース。

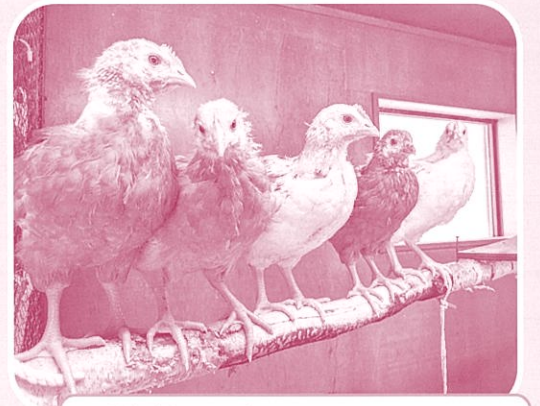
### 「ウサギ」(ロックスイヤー) 「ニワトリ」 「モルモット」(雑種) (ボリスブラウン)

10月23日来園  
【旭川乗馬クラブから】

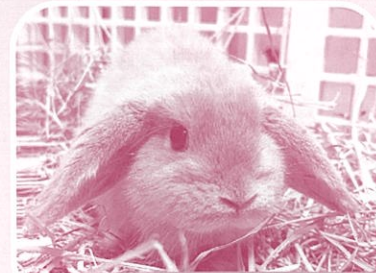
9月16日たまご(有精卵)で来園  
【東川町ファーム・レラから】



愛称:めくる(オス)  
2023年生まれ。  
毛が他の個体より少し長め。



愛称(左から):  
つゆ、てん、まめ、茶々、いそ  
2023年10月7日生まれ(赤い卵)。  
性別不明。食べ盛りで急成長中。



愛称:こま(オス)  
2023年生まれ。  
体が小さめで、人なつっこい。



愛称(左から):ローズ(メス・母)、デイジー(メス・娘)  
2022、2023年生まれ年子の親子。

## 主なできごと

10月15日 ホッキョクグマ「サツキ」(メス) 死亡(老衰)  
 10月19日 アムールヒョウ「デン」(オス)  
 来園 デンマーク・コペンハーゲン動物園より



10月23日 アメリカミンク(オス) 死亡(心不全)  
 11月3日 夏期開園最終日  
 わくわくゲーム大会  
 動物画コンクール表彰式  
 11月7日 ヒツジ「イツカ」(メス)「リッカ」(メス)  
 来園 吉田牧場より

11月8日 ライオン「イト」(メス)  
 ダチョウ(オス)  
 搬出 札幌市円山動物園へ  
 11月9日 エゾシカ「ペロ」(メス)  
 エゾシカ「ペネロペ」(メス)  
 搬出 釧路市動物園へ  
 11月11日 冬期開園開始  
 11月26日 「あったかトーク」開催  
 12月1日 ホッキョクグマ「ゆめ」(メス)  
 搬出 神戸市立王子動物園へ

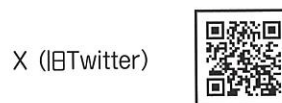


## 編集後記

今期はたくさんの動物が本園から移動をしました。搬出側は空き部屋をすることで新たな繁殖を目指すことができます。もちろん繁殖の都合だけではなく、個体にとって新たな刺激となります。野生下において単独の種だけで活動しているわけではありません。必ず他の生き物と接触する機会があり、においや気配など様々な要因から他種の存在を認識しています。例えばですが、ライオンのメスは基本的には群れにとどまるものですが、オスは定期的にプライド(群れ)の乗っ取りが行われるので、同じ雌雄が一生涯を寄り添い過ごすことはありません。また、メスは出産子育て時は群れを離れ単独での生活を行います。そのため、「群れに残る」のも、「群れから離れる」のも、「他のオスの気配を感じる」のも全てライオンらしい行動と言えます。

担当種で言えば、レッサーパンダの「桃桃(タオタオ)」や、「プーアル」などの移動時に寂しい思いはありましたが、それ以上に『旭山で育った個性豊かな自慢のレッサーパンダだ』とどの個体も胸を張って見送っています。これからも旭山で育ったたくさんの個体が、様々な経験を通して、元気に育ってくれたらと思います。(鈴木)

## 最新情報は ここでチェック!!



## モユク・カムイ No.119 令和6年1月2日

- 発行所/旭川市旭山動物園  
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行人/坂東 元
- 表紙絵/原田 佳
- 編集/中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・大西 敏文・中野 奈央也  
鈴木 達也・原田 佳・上江 昌弘
- 印刷/株須田製版：〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

## 飼育動物数

令和5年11月1日現在

- 哺乳類 41種・288点
- 鳥類 47種・292点
- は虫類 9種・25点
- 両生類 4種・25点
- 合計 101種・630点